

## 摘 録

会議名 令和6年度第2回刈谷市歴史博物館協議会  
日 時 令和7年2月20日(木) 午前10時30分～午後0時15分  
場 所 歴史博物館 1階講座室  
出席者 協議会委員：西宮秀紀(会長)、堀江登志実、山本智子、山田孝、真島聖子、  
金子一郎、戸田和晃  
※丹羽陽三委員、丸山佐智委員は欠席(敬称略)  
事 務 局：石川監、田代館長、新田館長代理、長澤学芸員、山下学芸員

内 容

### 1 議題

#### (1) 会長及び会長代理の選出について [資料1]

西宮秀紀委員を会長に推薦する意見があり、委員の互選によって選任された。  
堀江委員が会長代理に選任された。

#### (2) 令和6年度の状況について [資料2]

<資料収蔵庫の設計及び整備について>

(A委員) 民具の収蔵庫とのことだが、空調設備など、どの程度の機能を持つのか。

(事務局) 空調設備を備えた設計。現状を維持できるよう準備している。ガス燻蒸ができないので、何かあればモノ単位で対応する。

<収蔵品管理システムの管理について>

(B委員) 目録などのデータはどう整理・活用されているか。

(事務局) 民具・古文書・歴史資料のほとんどは収蔵品管理システムに登録されている。  
古文書は資料閲覧室で紙焼きを閲覧することができる。今後は、資料画像を登録していき、データベース公開も検討している。

(C委員) いつ頃公開できるか。

(事務局) 中途半端なものにならないよう、ある程度整理する時間が必要。

(D委員) 古文書の公開についてはわかったが、民具はどうか。

(事務局) 民具の多くは撮影されている。登録していくことが必要。

(B委員) 小中学生が来館するための予習・事前学習の際に収蔵品を紹介するなど活用できると良い。その上で博物館に行き、実物を見ることができると子どもたちの受け取り方も違ってくる。

(E委員) デジタルで公開するとそれに満足して来館者が減り博物館の空洞化が起りか

- ねない。ホームページを見て終わりにならないよう公開／展示での差別化が必要。
- (A委員) 博物館に行ってみることが基本。色や大きさなどを直接見て触れることで得る感動が残っていく。デジタルはあくまできっかけに過ぎない。
- (D委員) 本当は考古資料や民俗資料は触れられると良い。
- (A委員) 生活体験などで、壊れても良いものなど触れることのできるコーナーを設けていることもある。全部触れるようにするのは大変が、参考にするが良い。
- (F委員) 触れられない貴重なものでも3Dスキャンにより近くで見られる例もある。
- (C委員) デジタルから実物への導線を考えるのは集客にとっても重要なので、その仕掛けを考えてもらいたい。

#### <入館者数について>

- (C委員) 1月までで3万3千超だが、来館者数は横ばいか。
- (事務局) 昨年度は3万9千人ほど。2、3月が同じくらいなら3万7、8千人くらいになる。やや少なくなる見込みだが、去年は北斎漫画展の活況や大河ドラマの影響もあったが、今年度はその影響がなくなったことを考慮すると横ばいと考えられる。

#### <企画展「めでたきとり」について>

- (F委員) 有料入館者数と観覧者数の差が大きいのはなぜか。
- (事務局) 市内中学1年生の見学があるため、無料観覧者が多くなっている。

### (3) 令和7年度の予定について [資料3]

#### <木札の世界展について>

- (C委員) 読めない文字など赤外線写真などで展示するか。
- (事務局) 一部は赤外線写真をパネルにして展示する。翻刻を無料で配布する予定。

#### <子どもたちの戦争について>

- (D委員) 学童疎開について取り上げてもらいたい。他所事ではなく、この地域のこととして触れてもらいたい。
- また、これから数年先にでも戦後について取り上げてもらいたい。戦後の資料はほとんどなくなってしまっているのが急ぐ必要がある。
- (E委員) 夏休みの開催でせつかなので子どもたちには是非行ってもらいたい。何が出るのかなど教員も情報を知っていれば夏休みの宿題にして出すことも出来る。いつも学校から一緒に行くのではなく、好きな時に博物館に行ってもらいたい。

#### <文化財のセンター機能について>

(A委員) 野田史料館のLED化について、どこまで博物館が関わっていくのか。

(事務局) 補助金を出す。指定文化財保管施設に対しては市が費用の1/2を補助する。

(A委員) 指導も行ってもらいたい。現地保存や活用も大事だが、そのためには所蔵者や周辺住民の意識・理解を高めることも大切。積極的に関わってもらいたい。

(F委員) 祭など若い世代の人の郷土愛については課題。今は年配の人の想いが強くあるが、若い世代に受け継いでいくことはどのように行っていくか。

(B委員) 野田地区にある学校では保存会に入っている子もいる。史料館を誰がどうやって継承していくかは難しいところだが、雨乞い笠踊りについては、社会科の教員も保存会に入らせてもらっているので、上手く継承に役立てればと思う。

#### <市制施行75周年について>

(C委員) 市の歴史について、80周年などキリの良いところで予定してもらえると良いのでは。市の歴史を紹介することは、刈谷市の博物館にとって大切なこと。

(事務局) 今回は、企画展ではないが、常設展の中で可能な限り市制に関するものを展示し、お茶会に来た人に紹介できるようにしようと考えている。

#### (4)「刈谷市歴史博物館資料購入要項」の改正について [資料4]

資料購入検討委員会の書面開催について現行の要項では整備されていなかったこと、条文について市当局より整理を勧められたことから要項の一部修正を行うことについて提案し、反対意見は出なかった。

## 2 報告

### (1) 資料の購入について [資料5]

資料購入検討委員会を経て購入した「宋戸弥四郎関係文書」について報告した。

### (2) 博物館登録について [資料6]

博物館法の改正に伴い博物館登録の制度が改められ再登録が必要となったことから、令和6年7月23日に再登録を申請し、10月11日の実地調査を経て同31日に登録された旨、および実地調査の講評内容について報告した。

(F委員) キャプションの文字の減らしてというのは、学芸員としては辛い。

(A委員) 照度を落としているのでその分見づらいということもある。

(事務局) 常設展では150字を基準としている。当初キャプションはもっと小さかったが現在はパネルのサイズを大きくしていて、足りない情報は別にパネルを作るなどして対応したり、映像を使った解説など新たに追加して別で補完出来るような試みも始めている。これ以上文字を減らすと情報が足りなくなってしまう。

(G委員) 講評には民俗の学芸員の不在や美術工芸の学芸員の不足についての指摘があったが、これに対して人員確保や予算要求をすることはできるか。人が足りないと客観的な指摘をいただいているので説明材料ともなるのでは。

(事務局) 例年人事要望を出すことはできる。学芸員の年齢構成も考えながら課題として伝えたい。

(D委員) 考古の部門を埋蔵文化財センターに分け、そちらで人を採ることはできないか。

(事務局) 組織を設けて博物館の学芸員を兼務という形にすることはできるかもしれないが、当座の人数を増やすのはすぐには難しい。

#### <公開承認施設について>

会議の前日(2月19日)に承認証が届き、公開承認施設となったことを報告。

文化庁からは、美術工芸の学芸員が少ないことが懸念点として伝えられており、公開に先立って文化庁へ相談することも体制として忘れないで欲しいというコメントを口頭でいただいていることもあわせて報告した。

### 3 その他

#### <次回の協議会日程について>

(事務局) 次回は令和7年5～6月頃に開催する。

#### <購入資料の見学会について>

会議終了後、「宋戸弥四郎関係文書」の一部について見学会を実施した。